

“下町人情”が心の距離を縮めます

葛飾区文化国際課文化国際担当係長 大川 芳治

葛飾区の友好都市

葛飾区は、東京23区の北東端に位置し、荒川、中川、江戸川などが流れ、水と緑豊かな下町情緒あふれる人情味豊かな街です。

本区は、人と人とのつながりを大切にする地域性を活かし、海外都市と心と心の交流を深めてきました。

特に、オーストリア共和国ウィーン市フロリズドルフ区、中華人民共和国北京市豊台区とは友好都市提携を結び、二つの都市とさまざまな分野で交流を重ね、強い友情の絆で結ばれています。

ウィーン市フロリズドルフ区との交流

「始まりは空の上」

1986年、当時の「ツィルク」ウィーン市長が来日する際の飛行機の中で、映画「男はつらいよ」を鑑賞し、映し出された葛飾の風景や下町の人情、土地柄が、ウィーン市民の気質やウィーン市郊外の風景に似ていると強い印象を受けたことから交流のお話をいただき、江戸川河畔の風景とよく似たドナウ川のほとりにあるフロリズドルフ区と友好交流が始まりました。

その後、1987年11月2日に友好都市提携を結び、両区は、友好訪問団の派遣・受け入れや、青少年ホームステイなどの交流を続けています。

このような中、両区にはお互いに縁のある施設なども作られました。本区の文化芸術の殿堂“かつしかシンフォニーヒルズ”の正面玄関にはモーツァルト像が設置され、お客様をお迎えしています。この像は、ウィーン市王宮庭園に建つモーツァルト記念像の複製で、日本で唯一オーストリア共和国政府に許可され、両区の友情の証として設置されたものです。



シンフォニーヒルズのモーツァルト像

また、かつしかシンフォニーヒルズが誇る音響が素晴らしい“モーツァルトホール”は、ウィーンフィルハーモニー管弦楽団の本拠地であるウィーン楽友協会大ホールを参考に、シューボックス型のホールとして建設されました。

1992年5月に行われた開館記念式典・モーツァルト像除幕式には、当時のフロリズドルフ区長も出席しました。

フロリズドルフ区には、葛飾の名前を冠した「かつしか通り」（カツシカシュトラッセ）があります。片側2車線の幹線道路は、今では、ウィーン市民の交通の大動脈としてなくてはならないものとなっています。このほかにも、両区をつないだ映画「男はつらいよ」の石碑が設置された日本庭園「寅さん公園」があり、道行く人々の憩いの場となっています。ウィーンは、同映画第41作のロケ地にもなっています。

区民同士の交流を大切にする両区では、お互いに青少年を各家庭に家族として迎え入れるホームステイを行っています。本区では、柴又納涼花火大会を共に楽しみ、区民との文化体験などを通してお互いの理解と友情を深めています。帰国の際の共に流す涙と輝く笑顔がとても印象的です。来訪



青少年ホームステイ派遣団がレーナー区長（当時）と記念写真

した団員たちは、今でもホストファミリーなどと連絡を取り合ったり、再び本区を訪れるなど個々の交流も続いています。

ほかに、姉妹校交流や、本区の区民訪問団が結成した「Wiener Freunde (ウィーンの仲間たち)」が毎年、音楽の都ウィーンの魅力を伝えるコンサート「ウィーンの響き」を開催（今年の9月に12回目の公演を予定しています）するなど、草の根交流が根付いています。

北京市豊台区との交流

北京市豊台区との交流は、1985年1月、葛飾区議会日中友好議員連盟が豊台区を訪問したことを機にスタートしました。

互いに区民訪問団の派遣や受け入れを重ね、日中国交正常化20周年となった1992年11月12日、両区は、友好交流・協力に関する協定書に調印しました。これは、葛飾区と豊台区との親交によって、日中両国民の友情のさらなる発展をめざしたものです（後述しますが、両区の弛まぬ交流の軌跡が昨年、一つの実を結びました）。

以来、両区は、訪問団や視察団、バスケットボールやソフトボールなどのスポーツチームの派遣や受け入れ、児童・生徒の作品展示などの交流を積み重ねています。

議員連盟の訪中から30年となる今日においては、交流がますます活発になっています。

昨年1月には、京劇や音楽を学ぶ青少年20人（指導者含む）が来訪し、本区の立石中学校の生徒と文化交流を行うとともに、授業体験、そして給食をともに楽しみました。訪問団が学校を去る際には、互いに別れを惜しむ生徒たちの姿が印象的でした。

同年8月には、野球に取り組んでいる青少年15人（指導者含む）が来訪し、野球強豪校である青戸中学校野球部との交流試合を行い熱戦を繰り広げ、共に練習に汗を流しました。別れの際には、互いのボールを自然と交換し、今後の成長を誓い合っていました。将来この選手たちが、東京オリンピックの大舞台で競い合う姿が想い描かれました。

今年の1月にも、版画や砂絵などの芸術を学んでいる青少年24人（指導者含む）が来訪し、小中一



豊台区野球チームとの交流試合を終えて

貫校である新小岩学園の各教室で作品制作を披露しました。児童・生徒も共に制作に加わり楽しむなど、温かい交流が行われました。交流の最後には、新小岩学園の児童らが拍手で訪問団をお送りする感動的な場面も生まれました。

2月には、特別区長会の招聘による豊台区長を団長とする北京市区県友好代表团をおもてなしし、4月には、豊台区政府友好訪問団が来訪しました。

このような友好都市提携時の理念を実践してきた一つの成果として、昨年11月、本区と豊台区との長年にわたる友好交流が中国の国際交流に大いに貢献していると評価され、広州市で開催された、「2014年中国国際友好都市大会・広州国際都市刷新大会」において、大会主催者の中国人民对外友好協会および中国国際友好都市連合会から、モデル友好都市として表彰されました。都道府県レベルの受賞が多い中で、23区で唯一表彰されたことはひととき感慨深いものがあります。

「ふるさと葛飾」

自治体における国際交流を結実するためには、息の長い取り組みを地道に進めることが大切です。これまで携わってきた先人たちの熱い心が築き上げてきた友情の絆は二つの都市との心の距離を縮めてきました。

私たちが取り組む心と心が触れ合う交流によって、本区と友好都市の青少年たちに芽生えた友情の芽が、太く大きく育ち大樹となって、葛飾区とフロリズドルフ区、豊台区との懸け橋となってくれればと想います。

そして、葛飾区を訪れた青少年たちが、葛飾を愛し、そして第2の「ふるさと」と彼の地から思いを馳せてくれることを願っています。